

見まもるふれあう人と自然 板倉でつくる中能登の地域資産

自然な地形を
活かした
造成配置計画

①造成配置計画等

コミュニティ
をつくる
「ふれあいの道」
「みどりのさんぽ路」

③コミュニティ等

入居者と
近隣住民が集う
ポケットパーク

③コミュニティ等

懐かしい
希望の景観

⑥景観等

- ・緩やかな斜面に造成し高齢者、障害者等誰もが安全で快適に利用できる道路、駐車場アプローチを整備したユニバーサルデザイン
- ・大小カーブ、イメージハンプ等により車両走行速度を抑制した誰もが安全に歩ける道
- ・緩やかな南斜面に全住戸を南向きに配置、日射と通風を確保した地域の気候風土に適したデザイン
- ・地盤の液状化を防ぐため、通気浸透性のある擁壁と深根性のあるチャノキにより法面を安定化させ、透水性のある舗装や暗渠側溝等により雨水の土中浸透を図る防災対策

「ふれあいの道」と「ふれあい土間玄関」
・サービス庁舎から県道へと通り抜けるコミュニティの軸となる道をつくり、全住戸が接道
・道をはさんで住戸が向き合い互いに見まもり、土間玄関が入居者間のふれあいの場となる
「みどりのさんぽ路」と「菜園」
・住戸間に菜園を分散配置、それを巡るさんぽ路をつくり、住民同士が見まもりふれあう
・ふれあいの道の裏道として、防災の避難経路としての役割も果たす

「石動山ユリの丘」「良心市場」望楼「半月八角楼」
・ふれあいの道とみどりのさんぽ路の交差点にある「石動山ユリの丘」には、雑貨・野菜の無人販売所「良心市場」、石動山を東に望む震災復興祈念の望楼「半月八角楼」を備えたポケットパークをつくり、入居者や周辺住民が日常的に集う交流の場とする
・非常時には防災拠点にもなる

- ・大きくカーブを描くふれあいの道沿いに、中能登の歴史的景観であるアズマダチの町並みに調和した黒瓦の切妻の深い軒が連なる板倉の家並みをつくる
- ・敷地南にある保健センターの北側は日陰となり住戸の配置が困難なので「石動山ユリの丘」をつくり、望楼「半月八角楼」を建て、桜を植えて修景する
- ・春は町の花・さくらのゲートをくぐり、夏は町の花・石動山ユリの丘に集う



中能登の歴史と文化 中世の仏教寺院群遺跡石動山、古代より受継がれた能登上布、その清がもたらしたアズマダチの街並み この歴史と文化に基づいて、震災復興の町をつくるシンボル

さくらゲートウェイ北

くつろぎと交流促す
「能登ヒバベンチ」

あんしん

ふれあい

あたたかさ

道(路)はポケットパーク、
さくらゲートウェイ北へと繋がる

さくらゲートウェイ西

景観になじむ緩やかなカーブ、シケイン、標識、
イメージハンプ等で走行速度抑制 ※ゾーン30の設定促進

(詳細は様式3-3③、④へ)

②住戸計画

- ・深い軒をつくり地域の気候風土に対応
- ・多様な世代へ対応できる間取りとつくり
- ・自然素材でつくるふれあいのある健康な住まい

④県産材の活用

- ・県産材の能登ヒバ、ヒノキ、スギの無垢材をあらわしてつくる板倉構法 あんしんであたたかな住まい

⑤環境負荷低減等

- ・深い軒でつくる高断熱の板倉構法による環境負荷やライフサイクルコストの大幅な削減

4時間日照が不可のため防災シンボルとしての半月八角楼を設置

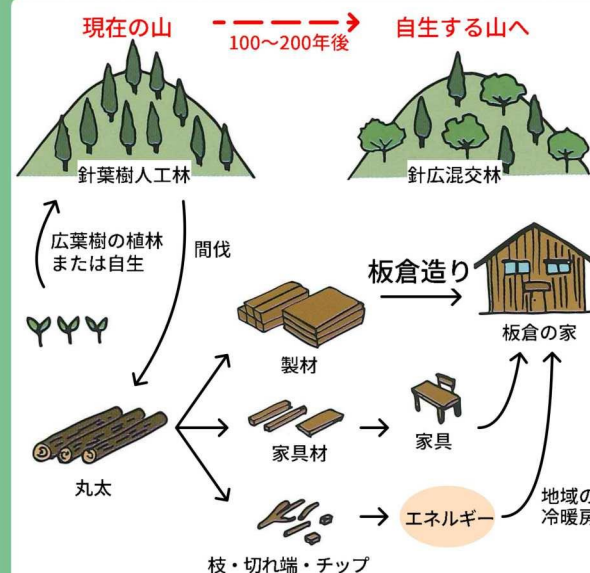
豪雨対策 緩やかな勾配⇒用水へ

板倉構法 地域の木材と大工でつくる循環する家 耐震・防火構造の国土交通大臣 認定取得

板倉による震災復興

- 1：能登半島は豊かな森林資源に恵まれている
その資源である、スギ、ヒノキ、能登ヒバ
を活用して、地域の資産となる復興住宅を
つくる 合わせて、森林の保全を図る
- 2：木材や自然素材だけで健康な住宅をつくり
解体後に有害な廃棄物を出さず地域環境を
保全する
- 3：復興住宅として役割を終えた後も、
耐久性のある構造で、維持管理が容易
部材を転用、再利用して長く使い続ける
- 4：地域の職人によってつくり、技能の継承と
後継者の育成を図り、地域文化を復興する
- 5：地域工務店が主体となって震災復興を図り
地域社会の振興に繋げる

木材の循環的利用で震災復興を図り、森林を再生



木を太く 厚く あらわしてつくる板倉構法

20坪(66㎡)あたり30㎡(一般木造住宅の約3倍)の木材を使用
100年の耐久性をもつ構造躯体は
4.7tの炭素(CO2換算17.2t)を貯留し
温室効果ガスの低減を図り
地球温暖化を防止する

一般木造住宅の約3倍
CO2を長期間 固定

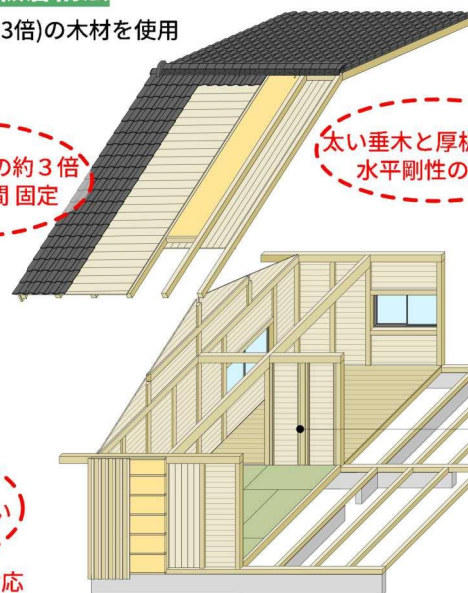
防火構造の落とし込み板壁
(壁倍率 2.2倍)

外壁:

外壁: 縦羽目板張り スギ 厚1.8cm
木摺り板: スギ 厚2.4cm
落とし込み板: スギ 厚3cm



厚壁だけで
30分燃え抜けない
防火構造
準防火地域にも対応



太い垂木と厚板による
水平剛性の確保

100年後も
転用、再生、移築が可能

屋根

野地板: スギ 厚3cm
垂木: スギ 12cm×18cm
天井板: スギ 厚3cm

高耐力落とし込み板壁
(壁倍率 3.4倍)

内壁:

栈付きパネル式落とし込み板壁

床:

床板: ヒノキ 厚3cm
土台・大引: 能登ヒバ 12cm×12cm

地域資源となる板倉の家づくりと森林の持続

CO2を吸収して、森林が再生・持続

地域の森林

伐採
スギ・ヒノキ・能登ヒバ

製材

栈積み乾燥

加工
板倉パネル製作



西日本豪雨災害復興公営住宅



東日本大震災仮設住宅



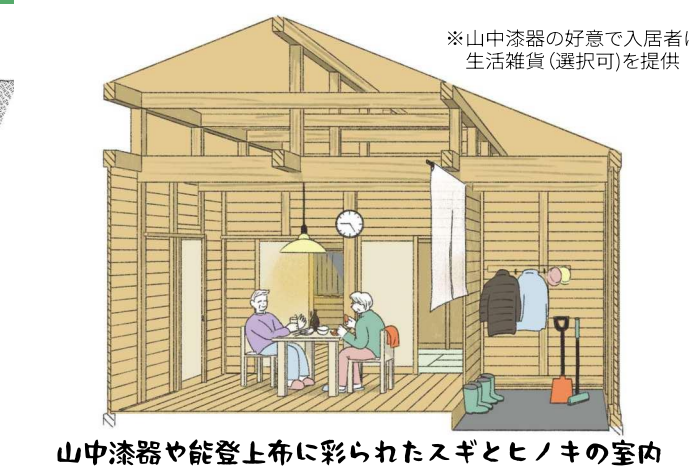
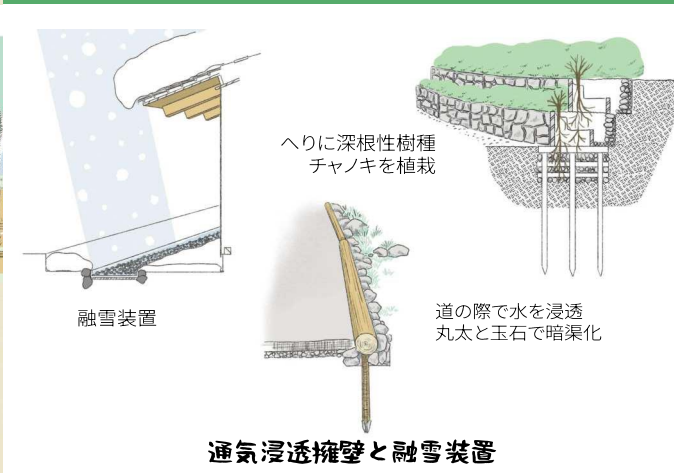
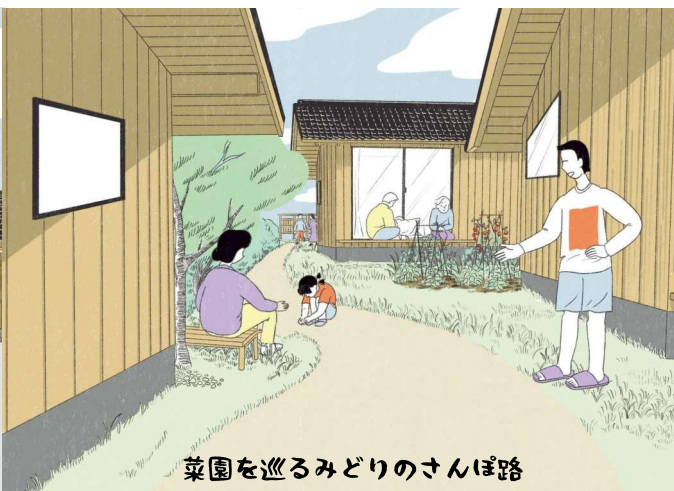
転用・再利用

解体容易

板倉の町並み

職人がつくる

パネル化による合理化



切妻大屋根の板倉の町並み

中能登のアズマダチ黒瓦の歴史的景観に調和



半月八角楼模型



住戸構造模型

10年20年後の住民の減少対策

- ①小規模保育園 宮城県山元町 (0～2歳児保育園)
 - ②将来的に福祉施設、分譲想定
 - ③長寿命化対策 益城町：高齢支援 (8%→3%)
- 東日本では10年後に空室率17.9%